

# 「自衛隊は多国籍の形で派遣を」

## イラク復興支援特別措置法成立

### 国際医療NGO AMDAの菅波代表に聞く



——自衛隊派遣は必要ですか。

「困っている人たちがいるのだから支援するのは当然。ともに困難に立ち向かうことで国際社会の尊敬と信頼を得られるはずだ。金を出すだけでなく、最悪。自衛隊だけでなく、NGO（非政府組織）も派遣して、国全体が協力している姿勢を示す必要がある」

——現地に自衛隊のニーズはありますか。

「イラクでは、本来国家がやるべきことが全く機能していない。治安維持や浄水施設、病院、学校の復興など仕事はいくらでもある」

——自衛隊が攻撃対象になる危険性が懸念されていますか。

「米国のための支援、と受け取られる恐れがあ

る。そうなっては極めて危険。日本はイラクの人たちのために活動する、という明確なメッセージを伝える必要がある」

——どうやってメッセージを伝えますか。

「自衛隊員の血を流さないことを前提に外交努力を続けてほしい。国民の代表として国会議員が現地に行き、イスラム諸国に影響力がある現地メディアに出演してはどうか。『イスラムの敵』とみられないために、自衛隊単独でなく、アジアや中東のイスラム諸国との多国籍の形で派遣するべきだ」

——国会での議論や混乱について感じたことは。

「議員には、百の議論よりも一度現場に行け、と言いたい。議論よりも日々の食事が必要なのがイラクの人たちの現状だ。イラクのために日本が何をするのかを、世界中が注視している。それを自覚したうえで、自分の

選挙区から1人でも自衛隊員が派遣されるのならば、その議員にはイラクの現状を見てほしい」

イラクに自衛隊を派遣するためイラク復興支援特別措置法案が26日の参院本会議で可決、成立した。今後、自衛隊が治安維持の後方支援や物資輸送などに携わることに。現在も散発的な戦闘が続くイラクに自衛隊を派遣する意義はあるのか、などについて、世界の紛争地や被災地で医療支援を続けている国際医療NGO「AMDA」（本部・岡山市）の菅波代表（56）に聞いた。